

平成30年6月4日(月)

老球の細道416号

県ミニバス指導者講習会雑感

会津バスケットボール協会 室井 富仁

わが長男は多彩なヘアスタイルが大好きで、学生の頃から、アフロヘア、アイバーソンヘア、極めつけはモヒカン刈りとパターンが豊富だった。それに対して中学校の頃から坊主刈り、スポーツ刈り、七三刈りの基本3パターンしか経験しなかった私にとって、長男の髪型は、ある時はヒンシュクであり、ある時は憧れであった。

ヘアスタイルは遺伝するのであろうか。こともあろうに孫息子がモヒカン刈りで生まれてきた。モヒカン刈りとは髪型の一種で、頭部の左右を丸刈りあるいは剃髪して中央部分の髪だけを残し、一見ニワトリのトサカのように見える。1970年代のパンク・ファッションにより流行し、1980年代に多様なモヒカン刈りが生まれた。ルーツは、北アメリカインディアンの一民族「モヒカン族」の髪型である。モヒカンはオオカミの意味。

実話「髪は細部に宿る」状況になっている私もモヒカンカットをしていることは髪のみぞ知る。行きつけの床屋さんが最近積極的にすすめるのものは試し、数回チャレンジしている。しかし、寂しいかな誰も気づかない。最近東京で流行している「部分モヒカン」だそうだ。これで門田町の室井家の男三代はモヒカン族となった。

私の行きつけの床屋さんはすでに70歳を越えながら、今でも研究心旺盛で3か月に1回の割合で東京に行きニュースタイルを勉強している。自分の技術を究めるために研究に余念がない。以前、白くなった私の髪を青色に染めてみないかとすすめられたこともある。この熱意に負けて、私はモヒカン族になってしまったのである。

前置きが長くなってしまった。5月27日(日)福島市南体育館で「県ミニバスケットボール指導者講習会」を行った。テーマは「ワンハンドシュート」と「オフENSEスペースング」。100名を超える指導者が参加して10時から16時半まで行われた。

70歳を超えた床屋さんと同じように、今回の講習会では60歳前後の好齢者が積極的に研修を積んでいたことに驚かされた。福島県ミニバス連盟の矜持を感じさせられた。年と共に衰えるのが体力であるが、情熱は何歳になっても衰えない。このような指導者に習っている子どもたちは幸福である。

ところが、指導中に実技のデモで参加したミニバスの子も達には色々なことを質問した。「バックspinはなぜシュートに大切ですか?」「シーン」。「誰か代表2人前に出てきてやってみてください」「シーン」。残念なことであるが、どこでも同じような状況は結構ある。わからないから答えられない、出る杭になりたくないから前に出ない。

技術の習熟度には3段階があり、指導者はその見極め方を熟知し、そのレベルに応じて指導しなければならないという(日本スポーツ協会『スポーツジャパン』V o 1 3 6)。

初級者レベルは、わかっていないけど「できた」。「どうやってできたの?」と聞くと答えられない。中級者レベルは、わかって「できる」。自分の有利な条件下でできる。「できる」ポイントを聞くと言葉で表現できる。上級者レベルは、わかって「できる」自分に不利な条件下でもできる。試合でも練習と同じように「できる」。

講習会の目標は常に「ためになった(上手になった)」「面白かった」「わかりやすかった」のビック3。今回もダメだった。